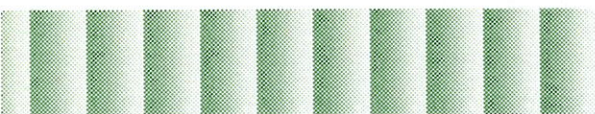


ベビーロック コンパニオン 3000

取扱い説明書



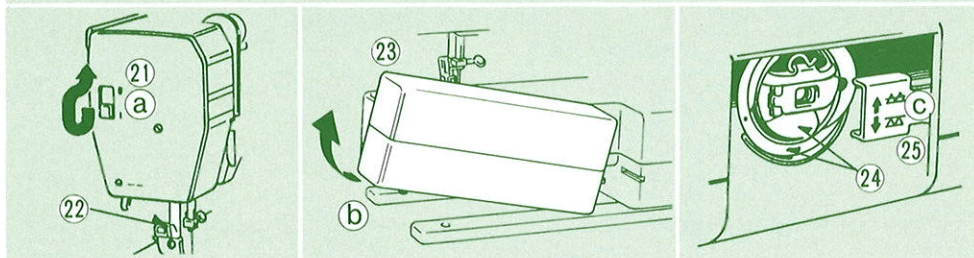
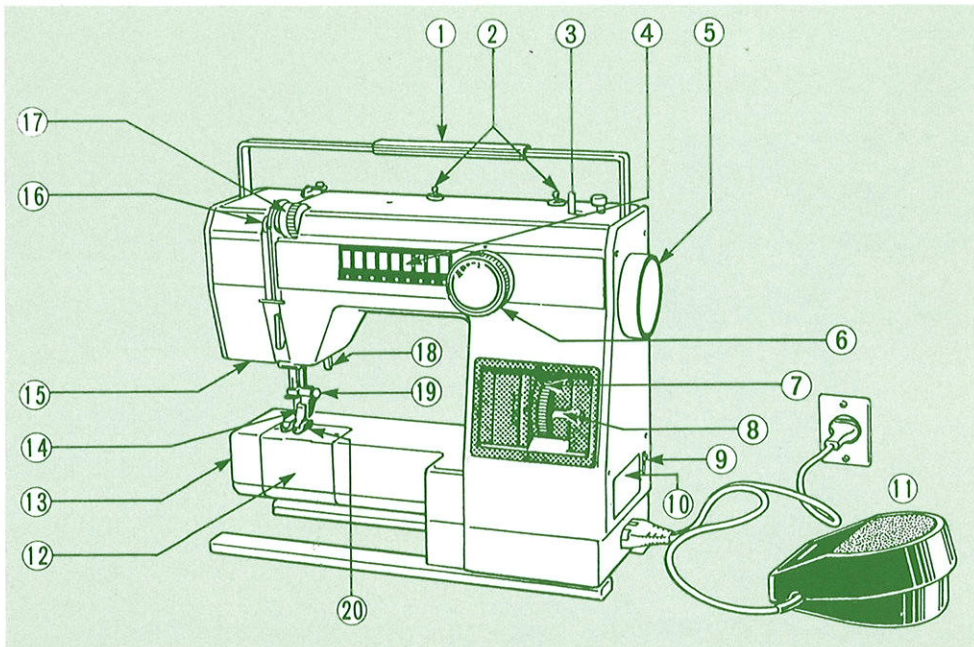
baby lock[®] COMPANION 3000

株式会社 **ジューキ**

お買い上げ誠にありがとうございます。このミシンの
すばらしい性能とその正しい使い方をご理解いただく
ために、まずこの取扱い説明書をごらん下さいますよ
うお願い申し上げます。

も く じ

■ミシン各部の名称	3—4
■附属品	5
■操 作	5—6
○電源のつなぎ方	5
○コントローラーの使い方	5
○アクセサリボックスの取りはずし方	5
○押え金の取り換え方	6
○針の取り付け方	6
○注油	6
○押え圧力の調整	6
○送り歯の高さ	6
■針・糸・布地	7
■ミシンを使い始める前に	8—12
○下糸の巻き方	8
○ボビンケースへの糸の通し方	8
○ボビンケースの取り付け方	8
○上糸のかけ方	9
○二本針使用の時の糸のかけ方	9
○下糸の引き出し方	9
○上糸調子の調節	10
○下糸調子の調節	10
○模様を選び方と縫い目の合わせ方	11—12
■縫い方	13—20
○直線前進縫い	14
○ジグザグ縫い	15
○点線ジグザグ縫い	16
○まつり縫い(ブラインドステッチ)	17
○直線三重縫い	18
○オーバーロックステッチ	18
○ボタンホール	19
○ファスナー付け	20
○つくろい縫い(ダーニング)	20
■手入れと保全	21
■故障の原因と対策	21—22

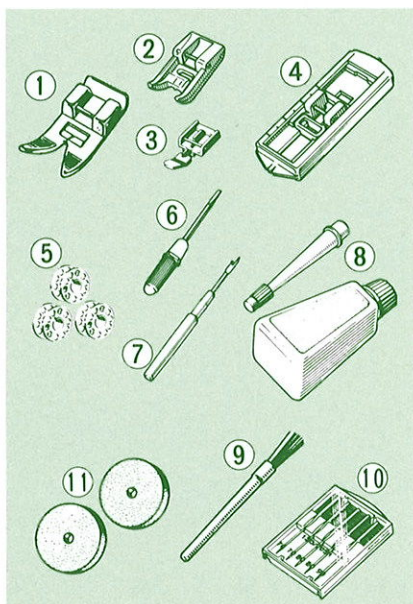


安全確認

特別安全規格の示す通り、ミシンを使用しない時、手入れをする時、又は、機械部品や、付属品を取換える時には、必ず、ミシンの外部電源差込みソケットから、電源コードのプラグを外しておいて下さい。

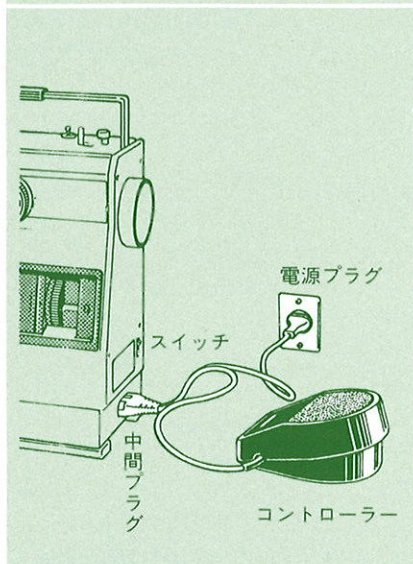
■ミシン各部の名称

1. ハンドル
2. 糸立棒
3. 糸巻軸
4. 模様選択表示窓
5. はずみ車 横に引き出し、内に押し入れという簡単な操作で、ミシンを糸巻きの為の空転状態に、又、元の運転状態への切り換えが、一瞬に出来ます。
6. 模様選択ダイヤル(振り巾)
7. 送り調節ダイヤル
8. 後進レバー
9. 電源/ランプスイッチ スイッチを入れますと、ランプ点灯とモーターへの電源が同時に入ります。
10. 電気定格、規格、仕様表示プレート
11. コントローラー(速度調節器) 一強く踏むと速くなり、軽く踏むとゆっくりしたミシンの速度になります。
12. かまふた
13. フリーアーム 一そでの仕立て、カフス付け、ソックスのつくろい縫い等、筒状のものを縫うのに大変便利です。
14. 針、家庭用ミシン針(15×1)をご使用下さい。
15. 電球—100V最大15W、E-17タイプ電球。
16. てんびん
17. 上糸調子器(ダイヤルテンション)
18. 押えレバー
19. 針止めネジ
20. ジグザグ用押え金
21. 押え圧力つまみ
 - ④通常の縫いには、“1”の位置に、つくろい縫い等、押え圧力をゼロにする時には“0”の位置にセットします。
22. 糸切り
23. アクセサリーボックス
 - ④左側を持ち上げると簡単にはずせます。はめておくと補助テーブルとしてご使用出来ます。
24. 全回転かまとボビンケース
25. ドロップフィードレバー
 - ④通常の縫いの時には、△△の位置に上げ、ボタン付け、つくろい縫い等、送り歯を送らず又は手で動かして縫う時には、▽▽の位置に下げます。



■付属品

- ① ジグザグ押え金 (ミシンに取付けてある押え金)
- ② 刺しゅう押え金 (透明)
- ③ ファスナー押え金
- ④ ボタンホール押え金
- ⑤ ボビン (全回転釜用) 3ヶ
- ⑥ ドライバー
- ⑦ シームリッパー
- ⑧ 油差し
- ⑨ ブラシ
- ⑩ 予備針セット
- ⑪ フェルト (糸立棒に差入れて下さい) 2枚



■操 作

○電源のつなぎ方

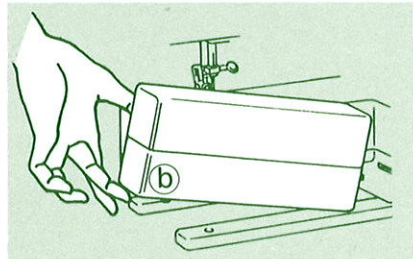
コントローラーの中間プラグを、図のようにミシンに差し込み、電源プラグをコンセントに接続してください。電源スイッチを入れるとミシンに電源が入り、ライトがつきます。

○コントローラーの使い方

コントローラーはミシンのスピードを調節するものです。強く踏むとミシンは速く回転し、軽く踏むとゆっくり回転します。

○アクセサリボックスの取りはずし方

左手親指をフリーアーム部におき、中指をアクセサリボックスの左側の底⑥に当て、持ち上げると簡単にはずせます。



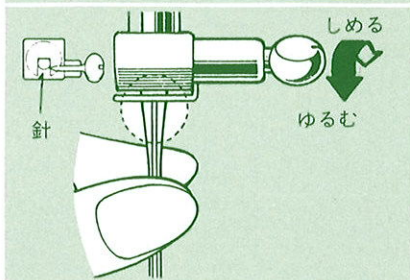
○押え金の取り換え方

押え金ホルダーのレバーを手前に押し、押え金は自動的にはずれます。取り付ける時は、好みの押え金をホルダーの下に置いて押え棒をおろし、レバーを離すと自動的に押え金は、ホルダーにセットされます。



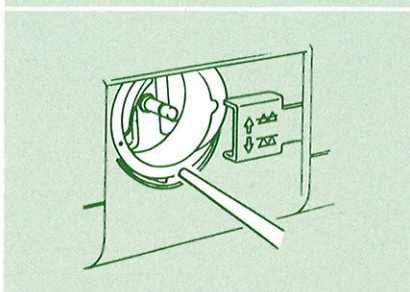
○針の取り付け方

針の平らな面を針棒にむけて、溝の上一杯まで差し込んで、針止めネジをしっかりと締めつけて下さい。



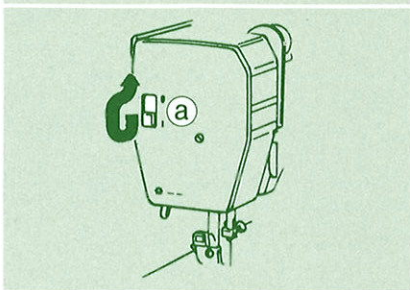
○注 油

最初にこのミシンをお使いになる時や、長期間お使いにならなかった時には、図のように、釜に油を一滴、差して下さい。



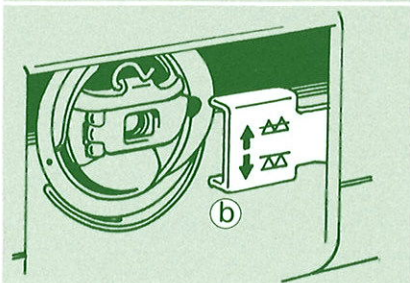
○押え圧力の調整

一般的な縫いの場合には押え圧力つまみ①を“1”の位置にセットして下さい。
なお“0”の位置にすると圧力はなくなります。



○送り歯の高さ

通常縫いの際はレバー②を上げた状態で、ボタン付けや刺しゅう縫い等の際には、レバーを下に押し、送り歯をさげてご利用下さい。



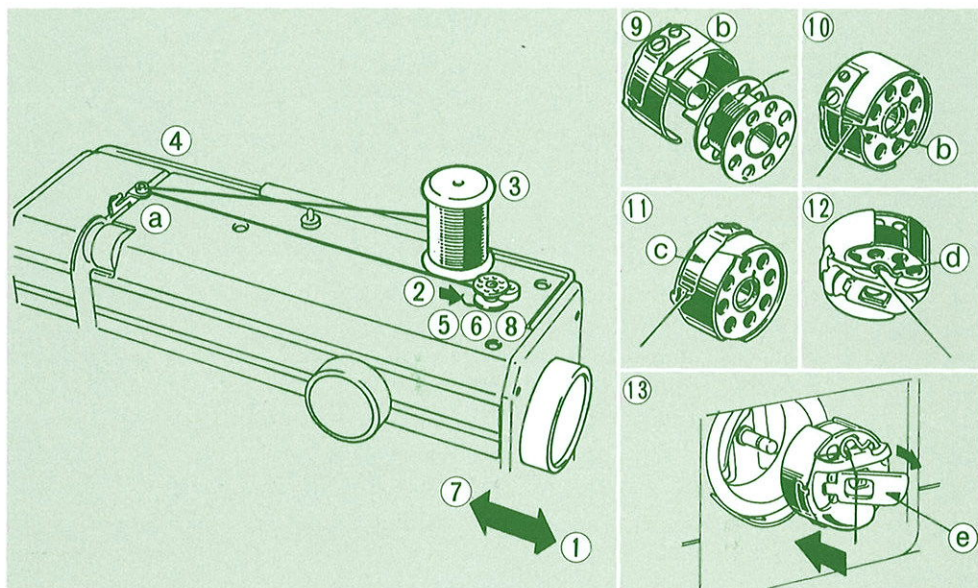
■針・糸・布地

良い品質の、艶のある、カタン糸を使用すること。つくろい縫いには、左捻りのダーニング糸が、丈夫です。

乾いた糸はよく切れます。又、針が悪いとミシンが良くとも、良く縫えません。針をときどき取り換えることが、肝要です。

布の種類と、どう仕上げるかによって、糸の種類を決め、えらんだ糸に合せて、針をえらびます。(求めている最終の仕上りの外観、丈夫さ、繊細さそれぞれに応じて、かがり糸、カタン糸、ミシン刺しゅう糸をえらんで下さい。)

		生 地		糸			針	送り目			
				絹糸	カタン糸	化せん糸	タイプ 130/705H(15×1)				
布	薄地	柔 もの か い	織り地：シフオン、クレープデシン	#80 ～	#80 ～	#80 ～	#60	約 1 ミ リ } 1.5 ミ リ			
			ネット地：ファイル、レース、チュール				ニット針#75				
			ニット地：ランジェリートリコット								
	張 あ る の もの	織り地：ローン、オーガンジー	#100	#100	#100	#70					
		ネット地：ふつうのレース地、あらめのネット				ニット針#75					
		ニット地：シレ									
中 厚 地	柔 もの か い	織り地：ベルベット、クレープ、モスリン、コーデュロイ	#50	#50	#50	#80	約 2 ミ リ				
		ネット地：ジャージダブルニット類				ニット針#75					
		織り地：ブルケード、シャンタン、ポプリン、リネン、デニム類、ツイード類				#60		#60	#80		
厚地	張 あ る の もの	ニット地：ダブルニット類、ボンデッドニット類				ニット針#75					
		織り地：ペロア、太うねコール天、テリークロス、模造毛皮	#50	#40 ～	#40 ～	#80					
		ニット地：ストレッチペロア、模造毛皮、セーターニット類						#50	#50	ニット針#95	
帛	厚地	柔 もの か い	織り地：厚地スーツ地、ズック地、ふとんがわ地、キャンバス、ダブルフェースのウール、セイルクロス(帆布)、デニム類、ギャバジン、ツイード類	#30 ～	#20 ～	#20 ～	#80	約 2 ミ リ } 3 ミ リ			
			ニット地：ジャガード、ダブルニット				#50		#40	#40	ニット針#90
			織り地：厚地スーツ地、ズック地、ふとんがわ地、キャンバス、ダブルフェースのウール、セイルクロス(帆布)、デニム類、ギャバジン、ツイード類								
皮革・ビニール	薄地		皮革、ビニール(薄地)、キッドスキン、コブラ、セーム皮、人工皮革、人工スエード	#50	#50 ～	#50 ～	#90		約 4 ミ リ		
			皮革、ビニール(中厚)、特殊ビニール、浮出し模様のあるビニール、人工皮革、人工スエード、天然スエード				#60			#60	#90
	厚地	皮革、ビニール(厚地)、バックスキン、カーフスキン、家具用ビニール、スエード	#20 ～				#20 ～			#20 ～	#100



■ ミシンを使い始める前に

○ 下糸の巻き方

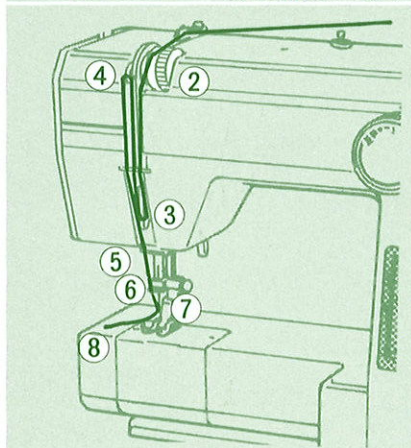
1. はずみ車を外に(右側)に引き出す。
2. ボビンを糸巻軸にセットし、右へ押す。
3. 糸立棒を引き出し、こま糸をおく。
4. 糸巻案内[Ⓐ]に糸をかける。
5. 糸をボビン糸に巻きつける(右方向に)。
6. コントローラーを軽く踏むと、糸はボビンに巻きとられ、巻きとりがすむとボビンは自動的にとまります。足をコントローラーからはなす。
7. はずみ車を内に(左側)に押し入れる。
8. 糸を切り、糸巻軸を左へ押して、もとの位置にもどし、ボビンを取りはずして下さい。

○ ボビンケースへの糸の通し方

9. 左手でボビンケースの端の切り込み溝[Ⓑ]が上になるように持ち、ボビンを糸が右巻きになっている状態で右手に持つ。
10. ボビンケースにボビンを入れ、糸をボビンケースの溝[Ⓑ]に引き入れる。
11. 糸を下糸調節バネ[Ⓒ]の下をくぐらせて、
12. 糸ガイド[Ⓓ]に通します。

○ ボビンケースの取り付け方

13. 針を上にあげ、ボビンケースのつまみ[Ⓔ]をつまみ、糸を10cmほど引き出し、図のように、かまの軸にしっかりとめ込む。確認のため、もう一度ボビンケースを押し、かまぶたを閉じる。



○上糸のかけ方

てんびんと押え金を上げた状態で、こま糸を上糸棒にたて、次の順序で糸をかけて下さい。

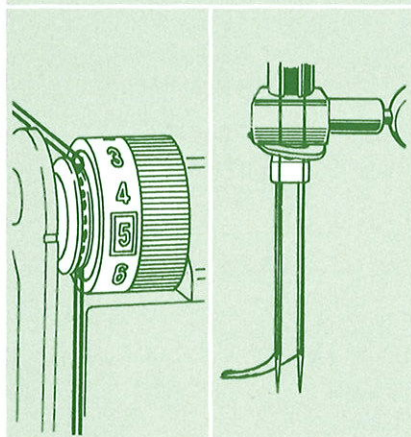
1. 横みぞ状の糸案内に(パネとの間に)パチンとはめる。
2. 上糸調子器(ダイヤルテンション)の皿の間に、糸を通し、
3. 下にさがって、チェックスプリング(補正パネ)枠に右から左へかけ、
4. 上にあがって、てんびんの切り込み溝に、右から左へかけ、
5. 下にさがって、中間糸案内に、左から右へ
6. 針止め糸案内に、左から右へ
7. 針穴には、手前から、うしろへ通し
8. 15センチほど引き出して置いて下さい。

○二本針使用の時の糸のかけ方

(中基線用二本針をご使用下さい)

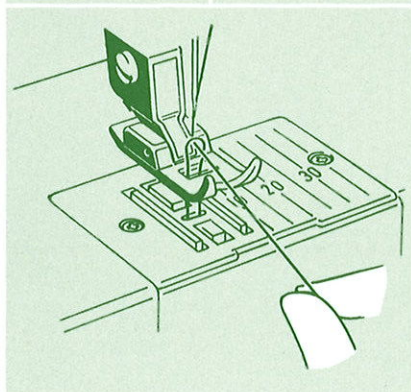
糸立棒を2本使用し、それぞれの糸を上糸調子器の中間皿の右と左にわけてかけ、二本針の右と左の針穴にそれぞれわけて通します。それ以外は一本針の時と全く同じです。

このミシンは、直線縫い“|”、伸縮直線縫い“|||”、ジグザグ縫い“”の1.5ミリ巾()で、二本針縫いをすることが出来ます。



○下糸の引き出し方

上糸のはしを持ち、はずみ車を手で手前へ一回転させて下さい。てんびんが一番上まで来たところで、上糸を引き上げると、図のように下糸が上に引き出されてきます。上下の糸を15センチほど横に引き出して下さい。



○ 上糸調子の調節

このミシンの上糸調子調節器(ダイヤルテンション)は、通常、大体表示5の枠内にダイヤルをセットすれば、ほとんどの縫いが、同じ糸調子で縫うことが出来ます。

- ① 図のように、布地の中央で、上下の糸がかみ合っている糸調子が最良です。

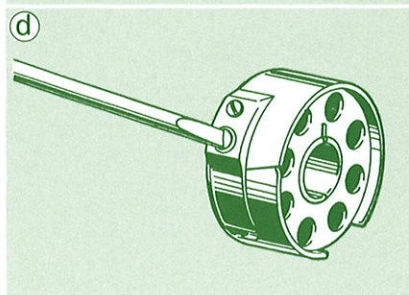
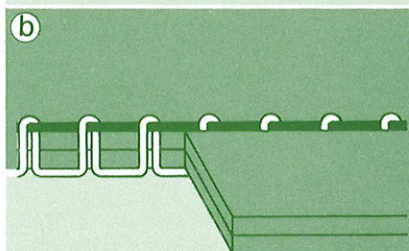
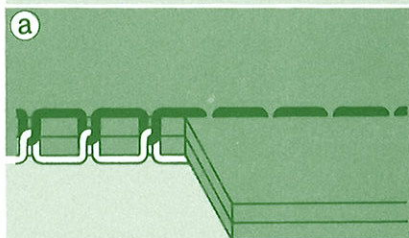
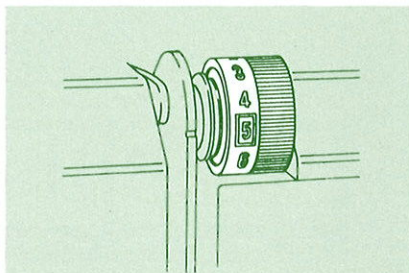
- ② もし、上糸調子が強すぎ、下糸が表面に出ている場合は、ダイヤルを5以下1までの間の適当な位置に調節します。

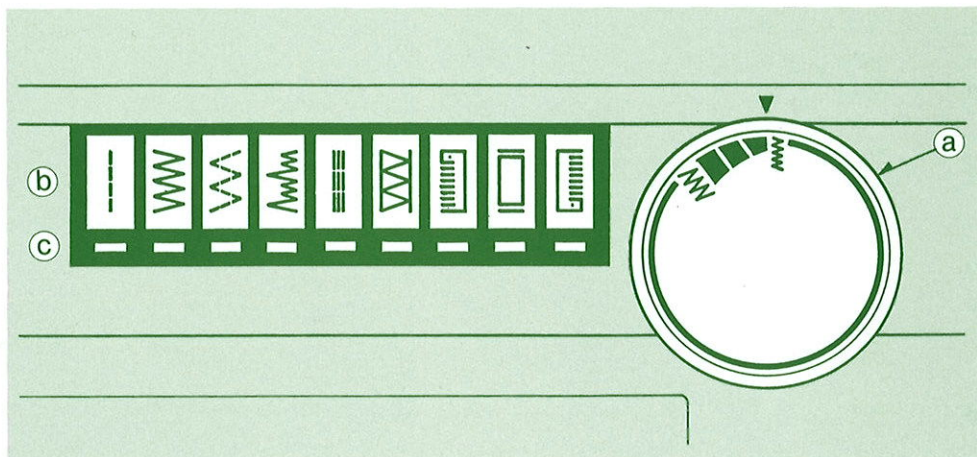
- ③ もし、上糸調子が弱すぎ、上糸が裏面に出ている場合は、ダイヤルを5以上9までの間の適当な位置に調節します。

○ 下糸調子の調節

もし、下糸調子を修正しなければならない(特にナイロン糸、伸縮性糸又は、特別な縫い方をする為に)時には、ボビンケースの糸調子パネの小さなネジをドライバーで、廻して下さい。右に廻すと強い糸調子になり、左に廻すと弱くなります。④

注意：けっして一度にネジを大きく廻さず、90度以下に少し廻しては、実際に縫って結果を確かめつつ、最も良い糸調子まで修正して下さい。





○ 模様を選び方と縫い目の合わせ方


① 模様選択ダイヤル(a)と指針(c)

模様選択ダイヤル(a)を右にまわすと赤い指針(c)が、左から右の窓へと移動します。最後の右端の窓から、さらにダイヤルをまわすと左端の“|”の窓にもどります。また逆にダイヤルをまわすと、指針が右から左へと逆に移動しますので、お望みの模様(b)の窓へ確実にセットして下さい。




② 模様選択表示(b)

● 前進縫い模様

- ⋮ 直線縫い
- ⋈ ジグザグ縫い
- ⋈ 3点ジグザグ縫い
- ⋈ ブラインドステッチ

これらの模様を縫う時は、送り調節ダイヤル(d)を  マークと4の間にセットして下さい。

● 自動ボタンホール(青色で表示)

-  前進縫い(左側)
-  バータック
-  後進縫い(右側)

送り調節ダイヤル(d)を  (青色)マーク内の適切な送り目にセットして下さい。

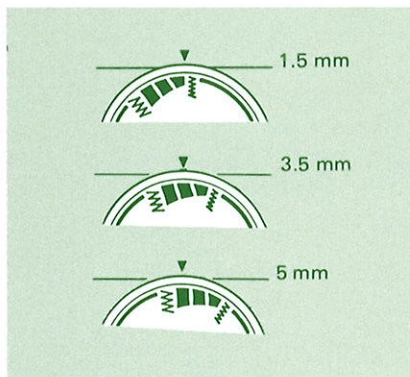
● 伸縮縫い模様

- ⋮ 伸縮直線縫い
- ⋈ オーバーロックステッチ


これらの模様を縫う時は、送り調節ダイヤル(d)を4(赤色)にセットして下さい。

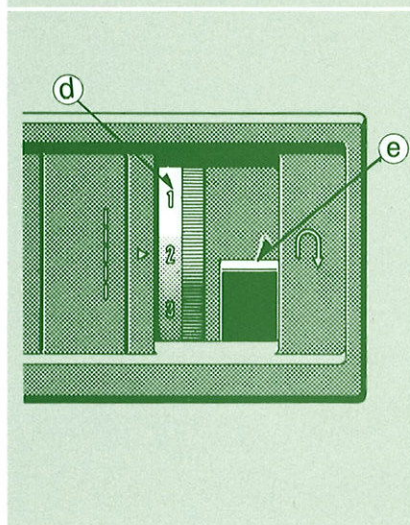
③ 振り巾の撰択

各模様の振り巾は、ジグザグ縫い以外は一定です。
ジグザグ縫いでは、模様撰択ダイヤル①を図のように
セットすることにより、1.5ミリ、3.5ミリそして5ミ
リの振り巾を選ぶことができます。



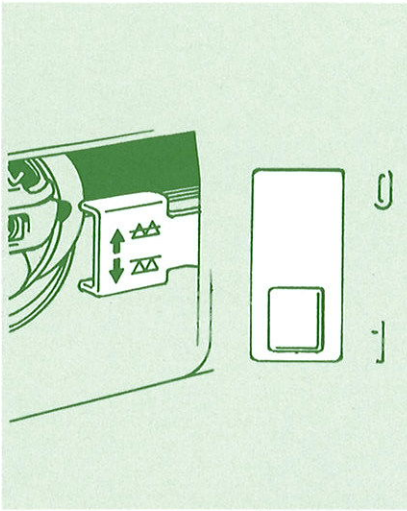
④ 送り調節ダイヤル②

このダイヤルは通常縫いの場合、前進の縫い目(送り目)の長さを調節するのに用います。0の位置では布は全く動きません。ボタン穴かがりや刺しゅう飾り縫いやジグザグ縫いの目のつまった短い縫い目には、1以下の  マークの前後にダイヤルをセットしてください。通常、直線縫いでは、2～3の間の位置にセットした縫い目が、最も一般的です。4の位置で、縫い目の長さが最大となり、通常の布地では縫い目の長さは4mmになります。自動伸縮縫い模様以外で使用する場合は、このつまみを0～4までの間の好みの縫い目の位置にセットしてください。



⑤ 後進レバー③

ほつれないように、縫い始めと縫い終りにする返し縫いは、このレバーを押して操作して下さい。
レバーをはなすとすぐさま前進縫いに戻ります。



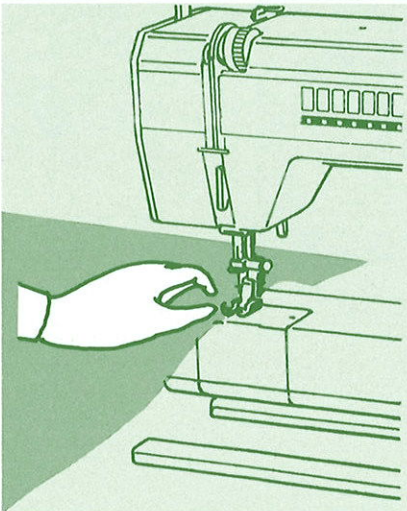
■縫い方

- 直線及びジグザグ縫いには、ジグザグ押え金を使って下さい。
- 送り目の小さな縫い（サテン縫い・縁かがり縫いなど）には透明刺しゅう押え金を使って下さい。
- * まず、お確かめ下さい：

ドロップフィードレバー →  の位置

押え圧力つまみ → “1” の位置

注意：糸を掛けたまま布を置かずにミシンを動かすことは、絶対にしないで下さい。



- ① 押えレバーを下げて押え金を布の上におろし、(布地はかならず押え金の下いっばいに入れて下さい。
- ② 手ではずみ車を手前に廻して、布に針を突き通し、それから上下の糸の端を手で2～3針縫う間おさえながら軽くコントローラーを踏んで縫い始めて下さい。踏み込みを大きくしますと、縫い速度は速くなります。

指は、押え金の横の布にそえて縫う方向をただだけで、布のうしろを持ったり、うしろから引張ったりは、決してしないで下さい。そして縫い目に注目して下さい。そうすれば、縫いがうまいかを見つづけられ、決して指をけがすることはありません。

最良の仕上りのためのキーポイント

I. 正しい糸掛け

実際に縫い始める前に、もう一度、正しく上糸と下糸がかけられているか、引き出されているかを確かめて下さい。(8～9ページ参照)

II. 正しい糸調子

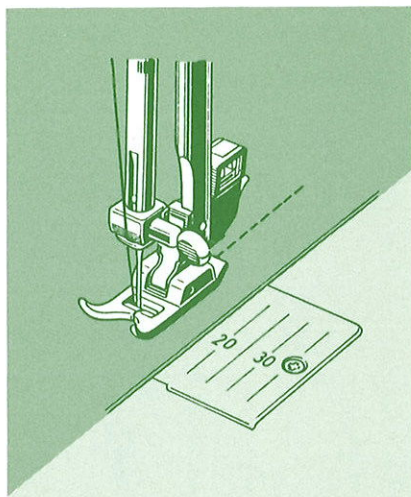
上糸調子ダイヤル目盛5のあたりで、大体上糸と下糸の糸調子は、ほとんどの布地で、釣り合うのですが、念のため、布地の切れ端を使って、試しに縫って、実

“直線前進縫”

○縫い模様表示 = |

○送り調節ダイヤル = 1 ~ 4

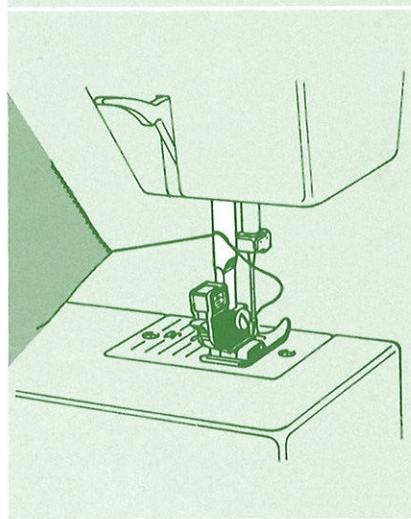
送り目は、通常1~2位が適当ですが、生地、目的によって2~4にします。針板の上の目盛の線は5ミリ間隔です。布の縫い線のガイドとしてご利用いただきますと、まっすぐ縫うたすけになります。



“生地の取りはずし方”

縫い終って、生地を取りはずすときは、はずみ車を手でゆっくり廻して、てんびんを一番上にもってきます。

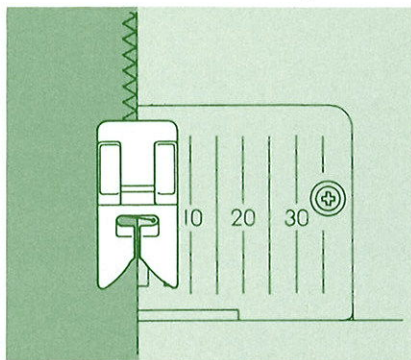
(これが縫い終わり、縫い始めの大切なてんびんの位置です)。押えレバーを上げ、布地を押えのうしろ側に引き出し、上下の糸を10センチほどミシン側に残るように糸を切ります。糸切りは、押え棒のうしろ側にある溝です。



際釣りの状況を見て下さい。ボタンホールの縫いや、サテン縫いでは、ある種の布地では、上糸調子を少し弱く、ダイヤルを3~4にした方が、好みによっては、きれに見える仕上りに出来ます。(10ページ参照)


Ⅲ. 薄物及び目の荒い布地の縫い

薄物及び軽量の布地での縫いでは、押え金と布との間に、又は、布の間に、紙を一枚はさむことをおすすめします。そうすることで、仕上がりがきれいに出来ます。縫い終ったあとで、紙をちぎり取ります。

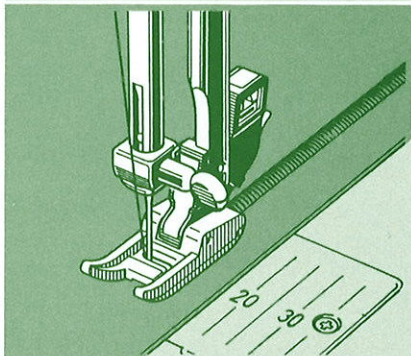
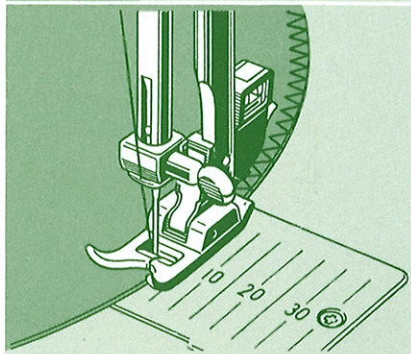


ジグザグ縫い



裁ち目かがり

- 縫い模様表示 = 
- 模様撰択ダイヤル = 3.5ミリ 又は 5ミリ
- 送り調節ダイヤル = 1 ~ 3

厚地及び中厚地のときには、図のように、布のはしを、押え金中央の溝にくるようにし、針が左側では布の上に、右側では布をはずして落ちるように縫います。



サテン縫い

- 透明刺しゅう押え金を使って下さい。
- 縫い模様表示 = 
- 模様撰択ダイヤル = 3.5ミリ 又は 5ミリ
- 送り調節ダイヤル =  又は 0 近辺

生地によってダイヤルの位置を、縫い目が重ならず下の布地が見えない程の送り目になるよう適切に調節して下さい。この送り目が、かざり縫い、ボタンホール縫いにかかせないサテン縫いの送り目です。

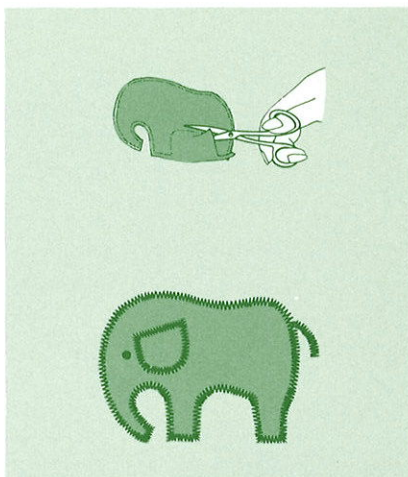
レース、フリル布付け

ランジェリー・ドレス・シーツ・枕カバー等にレースや縁かざりを付けてください。それらをところどころピンで止めるか、しつけ縫いをして、その縁にそってジグザグ縫いでとめて下さい。



アップリケ

別に用意したアップリケの小物を、布にピンどめ、又はしつけ縫いして下さい。そしてその縁を適当な振り巾のジグザグ縫い、又はサテン縫いでとめます。カーブしている部分ではカーブの内側を中心の軸のようにして、布を回して下さい。紙を裏当てして腰を強くして縫い、後ではみでた部分の紙をはぎとりますときれいに仕上がります。

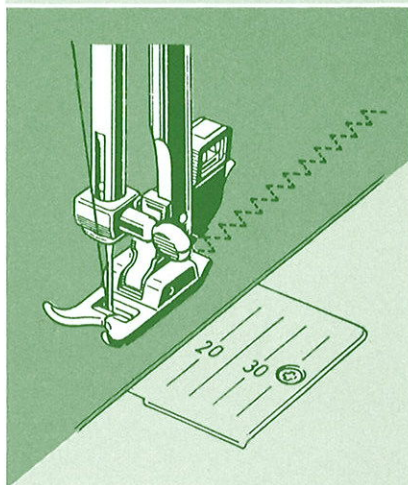


点線ジグザグ縫い

○縫い模様表示 = 

○送り調節ダイヤル = 1 ~ 2

この縫い目は、縫い目が丈夫であることと、ゴム紐付け、ジャージや伸縮エラスチック布の縫い、パッチ縫い、つき合わせはぎ縫いに非常に役に立ちます。裁ち目かがり縫いにも、布地次第では、むしろこの縫い目をお使い下さい。

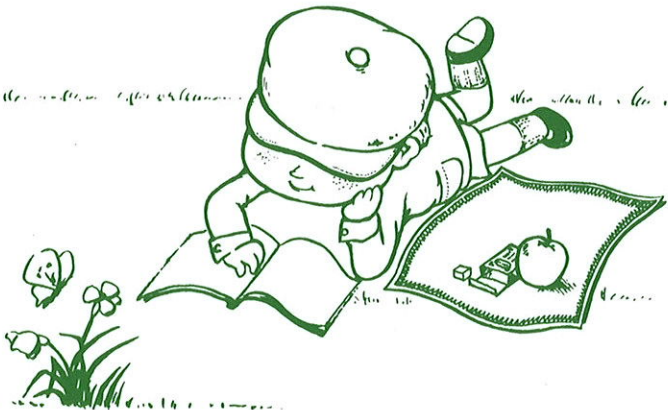
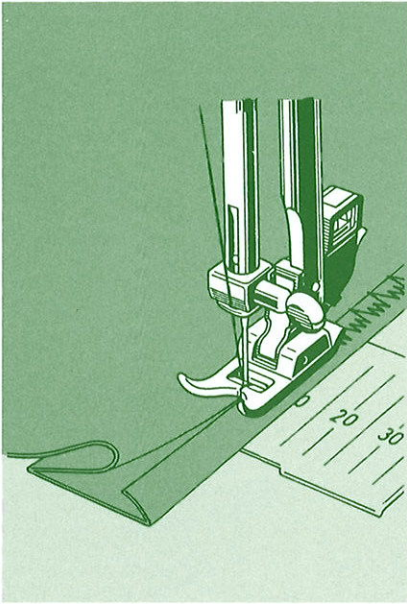


まつり縫い及び端かがり(ジャーマンブラインドステッチ:伸縮ブラインドステッチ)

○縫い模様表示 = 

○送り調節ダイヤル = 1~2

まつり縫い(ブラインドステッチ)の場合、布地の裏側を上にし、図のように端を折ります。押え金の中央より少し左側に上の折り山の端がくるように布をおき、大きなジグザグ巾縫い目の時にだけ、上の折り山の端に、針が落ちるようにして縫います。縫い終わったならば、折り山をひろげて、アイロンをかけます。又、この縫い目は、テーブルクロス、ナプキン、かざり縁付け、ほつれたボタン穴の補修などの、端かがりに使うと役に立つ縫い目です。端かがりの時には、送り目を小さくして縫いますときれいに仕上がります。



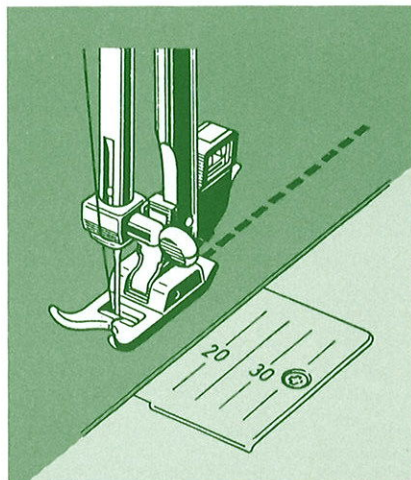
伸縮縫い模様(赤色の模様表示)

直線三重縫い

○縫い模様表示 = 

○送り調節ダイヤル = 4 (赤)

この縫い目は、伸び縮みしますので、引張っても切れません。ジャージ、トリコット、メリヤスなどの伸び縮みする布地を縫う場合は、この縫い目で縫えば、布地が伸びても、糸が切れてほつける心配はありません。ただし、縫い目はなかなかほどけませんので、縫い直しをしなくても良いように注意して縫って下さい。

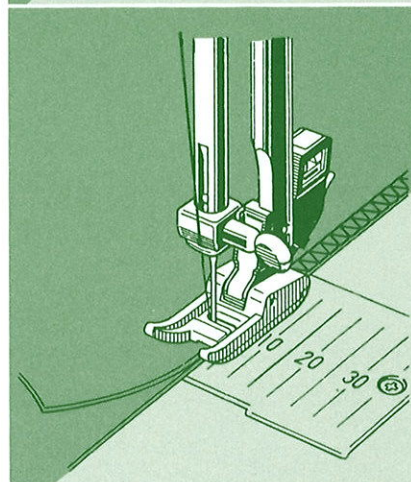


オーバーロックステッチ

○縫い模様表示 = 

○送り調節ダイヤル = 4 (赤)







裁ち目かがりと縫い合せが同時にできます。縫い代を割らなくても良い場合に最適です。針が布地の右端よりはずれないように、少し内側を縫います。縫い上り後、必要なら縫い目を切らないように注意しながら余分な布端を切り落します。縫い目に伸縮性がありますので、ジャージ、トリコット、ニット、メリヤスなどの布地の裁ち目の始末に用います。

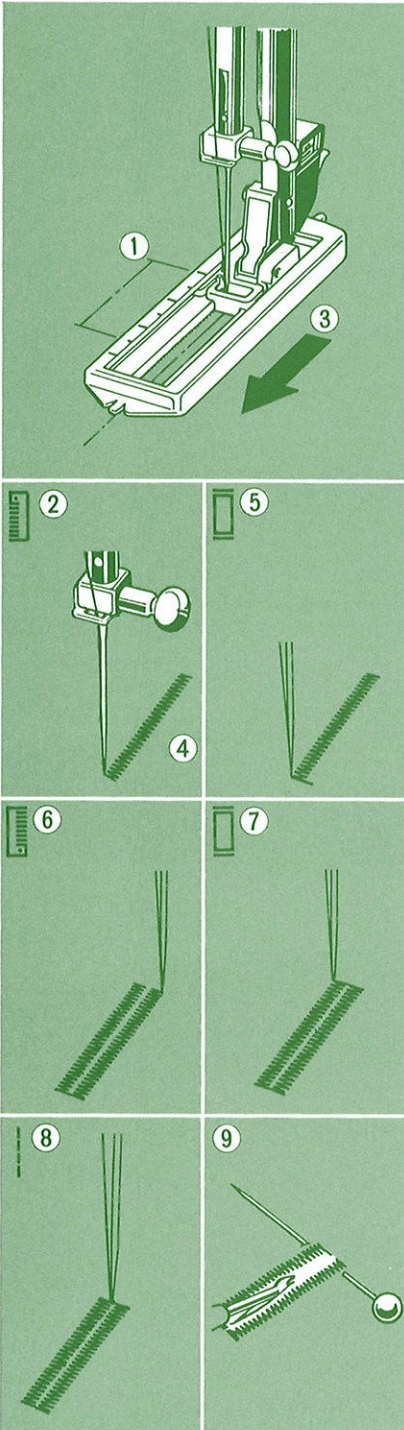


ボタンホール

4ミリ巾のボタンホールが、布を回わさずに出来上ります。実際に縫う布地と同じ布の小片で試し縫いをしてみてください。

— ボタンホール押え金を使います。

1. 布地の上に、ボタンホールの位置と長さのしるしをつけて下さい。
2. 縫い模様表示“”（青色）にダイヤルをまわし、送り調節ダイヤルを“”（青色）マーク内、又は0近辺の送り目の位置にします。
3. ボタンホール押え金のスライドそりを手前いっぱい引きよせ、その中央マークに、布のボタンホールのマークの中央が、そして針が上の端にくるように、布をおき針をさげて布に突き通します。針糸の端をボタンホール押え金のうしろ下側に引き出してから、押え上げをおろします。
4. ボタンホールの左端を縫います。針だけを上に上げます。
5. 縫い模様を右隣りの“”（青色）にし、数ステッチかんぬき止め縫い（バータック）をします。針だけを上に上げます。
6. 縫い模様を更に右隣りの“”（青色）にし、ボタンホールの右側を縫います。（自動的に後進）
7. 縫い模様を前のバータック表示“”（青色）にもどし、ボタンホールの上端を、数ステッチかんぬき縫いします。針だけ上に上げます。
8. 縫い模様を“”（直線縫い）にし、送り調節ダイヤルを0にし、2～3針止め縫いをします。
9. 縫い終わって、布を引き出し、糸の端を切って始末した後、かんぬき止めのところへ、まち針をさしてから、ボタンホールの中央を切り開きます。このとき、縫い目を切らないよう注意ねがいます。



ファスナー付け

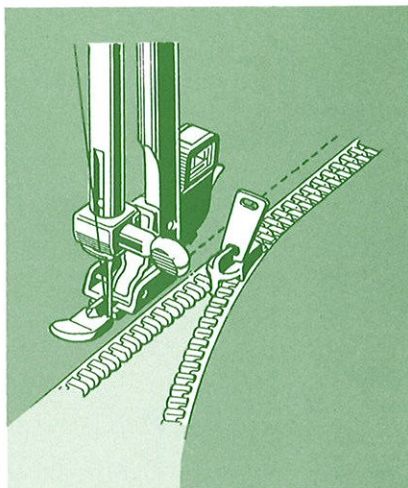
— ファスナー押え金を使用

○縫い模様表示 = 

○送り調節ダイヤル = 1 ~ 3

ファスナー押え金を、ファスナーの左右を縫うときに、それぞれ針に対して右、左に付けかえ布をまわさずに、ファスナーの両側を縫うようにします。縫い始める時は、ファスナーを閉じておき、中程まできてから、開けて縫いますと、ファスナーのつまみが邪魔にならず、うまく縫いあがります。

又、落しミシン縫いのときにも、ファスナー押え金を使って片押えで、同様に縫って下さい。




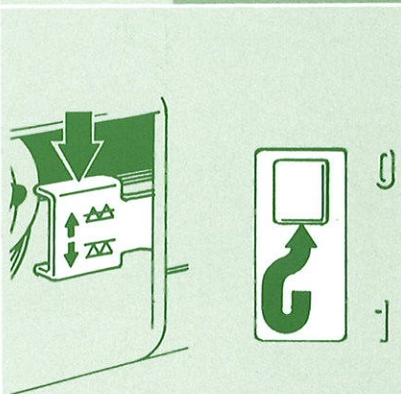
つくろい縫い(ダーニング)

— ダーニング糸及び透明刺しゅう押え金を使用

○縫い模様表示 = 

○送り調節ダイヤル = 0

ドロップフィードレバーを下にさげ( の位置)、送り歯が上に出ない様にし、押え圧力つまみを0の位置にします。通常の縫いのときと同じように、針を布に突き通して、押え金を下げ、2~3針縫う間は、糸の端を押え金のうしろで指でおさえて縫い始めます。ゆっくりした同じ速度で縫って下さい。針の上下に合わせて、ゆっくり布を前後にうごかします。縦方向前後に、少しずつ、右又は左へ布をずらしながら、つくろい部分を縫い終わったら更に、布を直角にまわして同じ様に、つくろい部分を前後方向に少しずつ横にずらして行って、前の縫い目と直角に、つくろい縫いします。指で布を引張って、いつも張った状態にして縫うのがうまく仕上げるコツです。

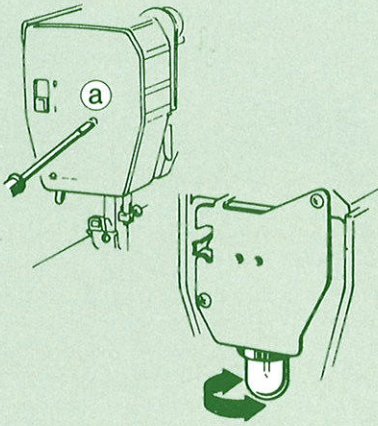
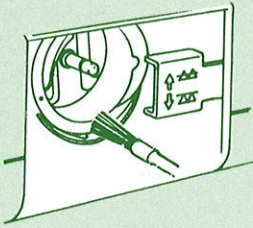


■手入れと保全

お手入れを常にしていただいていますと、ミシンは絶えず調子よくお使いいただけます。尚お手入れされる前には、必ず電源を切ってください。

はずみ車を廻して針を上にあげ、かまふたを開けてボビンケースを取り出して下さい。そして、かま(回転フック)、送り歯のまわりの糸くず、ほこりを付属のブラシですっきり取り払って下さい。かまには、1～2滴のミシン油を差して下さい。

(内部の運転部品に、いつも油がゆきわたっておりますと、常に軽く、静かに運転出来、寿命も大変長持ちします。毎日ご使用になっている場合は、週に一回、そうでなければ年に数回は天板(上ぶた)を取りはずし、内部の摺動、作動部分に1～2滴の注油をしていただきますと、調子よくお使いいただけます。特に数ヶ月以上、お使いにならなかった場合は、必ず注油はかせませません)。



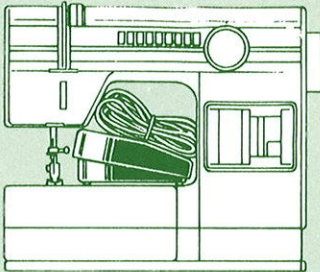
電球の取り換え

この電球は、100ボルト、15ワット、E-17ミシン電球です。お取り換えの際は、まず電源プラグを必ずはずして、電源を切ってください。

図の①のネジをゆるめ、カバー板を上へずらすように取りはずして下さい。電球は、通常の電球と同様に、左へ廻していただきますとはずれません。お取り換えの後、カバー板を電球ソケット取付板の上に引っかけるように、上からはめ込んで下さい。ネジ①を締付けて、とめて下さい。

ミシンの格納

押え金と針板の間に、よく乾いた布切れをはさみ、押え金をおろします。針をいっぱい下まで下げ、上糸をはきして糸立棒の中に差し込んで下さい。コントローラーを図のように、コードを束ねてミシンの中央におき、カバーをかぶせて格納して下さい。



■故障の原因と対策

一般にミシンの故障は、大部分がミシン操作、使い方の初歩的誤りが原因のことが多いのです。ですから充分この説明書の内容をよく読んでお使いいただくことが肝要です。しかし、もし問題が生じた時には、まず、次の点をチェックして下さい。

1. 糸掛けは正しく行なわれたか。(9～10ページ参照)
2. 針は正しく取り付けられたか。(6ページ参照)
3. 針と糸は正しく合っているか。(7ページ参照)
4. 下糸は正しく巻かれ、正しくセットされ、正しく引き上げられたか。(9～10ページ参照)
5. 上糸、下糸の調子は正しくバランスがとられているか。(10ページ参照)
6. 縫い始めの時、上糸、下糸を押えなかったために、糸がかまに巻き込まれたのではないか。
7. 伸縮縫い模様るとき、送り調節ダイヤルを4(赤色)以外の位置にセットしたのではないか。

●小さな故障の主な原因

○上糸糸切れ

- 15×1以外の種類の針の使用、針品質の不良、針の曲がり、針の取り付け方の誤り。
- 針が縫いの種類に不適合。
- 糸のかけ方の誤り、又は使用した糸の品質不良。
- 下糸が正しく上に引き出されていなかった。
- 糸の番手が縫いの種類に不適。
- ミシンに、ごみがたまっていた。
- 上糸調子が強すぎた。

○下糸糸切れ

- ボビンへの糸巻きが不均一、又は糸の引き出し方に誤り。
- 下糸調子が強すぎた。

○布の裏面で糸がプツプツ出る

- 上糸が正しく掛けられていなかった。

○布にしわがよる

- 押え金の種類が縫いの種類に不適。
- 糸が太すぎた。
- 送り目が長すぎた。
- 上糸下糸調子が強すぎた。
- 下糸が正しく上に引き出されていなかった。

○布が均一に送られない

- 押え圧力つまみが1の位置にセットされていない。
- 針板がゆるんでいた。(とめネジをしっかり締めなおす)
- 押え金がホルダーにカッチリはまっていなかった。
- 押え金の種類が縫いの種類に合っていない。
- 送り目が縫いの種類に合っていない。
- 伸縮縫い模様るときに、送り調節ダイヤルを4(赤)

の位置にいなかった。

- 送り歯にごみがつまっていた。
- ドロップフィールドレバーを、上にあげていなかった。

○思い通りの縫い目にならない

- 縫い模様撰択ダイヤルが正しい位置にセットされていなかった。
- 通常縫いの時の送り目撰択が、合っていなかった。
- 伸縮縫いの時に、送り調節ダイヤルが4(赤)以外の位置だった。
- ドロップフィールドレバーが、下にさがって ∇ の位置にあった。
- 押え圧力つまみが0の位置になっていた。

○針折れ

- 布地を手で引張った、それで針が押え金あるいは針板に当たった。
- 針が布地や糸の種類に対して細すぎた。
- 針の種類、品質の不良、曲がり、取り付け方の誤り。
- 針が縫いの種類に合っていなかった。
- 上糸調子が強すぎた。

○ミシンのスピードがおそい

- プラグの差し込み方の不完全。
- 掃除と注油の不足。
- かまの油ぎれ。

○音が高い

- かまに油がきれている。掃除が不足。
- 針の先がつぶれている。

○モーターは廻るがミシンが動かぬ

- はずみ車を外へ引張り出したままにしている。
(内に押し入れよ)

○ミシンが動かぬ

- 電源に電気がきていない。
- スイッチの入れ忘れ。

○かまに糸がかんでミシンが動かぬ

- 縫い始めに、糸の端をおさえていなかった。
(針、押え金、ボビンケースを取りはずし、はずみ車を手で少しずつ、始めは後へ、次に前へ揺り動かして行って下さい。つづけている内に揺れ動きが大きく出来るようになり、かみ込まれた糸のはしが切れて外へ出て来ます。残りの糸を引き出し、かまをきれいに掃除してから、油をかまに充分差し、暫くの間糸をかけずにボビンケースも取り付けず空運転して下さい。)

○ボタンホールが正しく縫えない

- 押え金の取り付け誤り、送り目が短かすぎる。





お客様相談コーナー

札幌	011(737)6821	名古屋	052(962)7631
仙台	0222(27)8470	大阪	06(768)3651
東京	03(265)8741	神戸	078(361)0823
横浜	045(453)0591	広島	082(227)5781
静岡	0542(82)2951	福岡	092(741)3173

本社／〒104 東京都中央区八重洲2-7-2(八重洲三井ビル)
TEL 03(272)2851(代表)